

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第12条、法施行規則第56条)
〔PCT36条及びPCT規則70〕

19 AUG 2004

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 16075	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/10821	国際出願日 (日.月.年) 27.08.2003	優先日 (日.月.年) 27.08.2002
国際特許分類 (IPC) Int. C17	B60R21/04, B60R19/18, B60R25/04	
出願人(氏名又は名称) 鐘淵化学工業株式会社		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条 (PCT36条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a 附属書類は全部で _____ ページである。

補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT規則70.16及び実施細則第607号参照)

第I欄4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関するデータを含む。(実施細則第802号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第I欄 国際予備審査報告の基礎
 第II欄 優先権
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 第IV欄 発明の單一性の欠如
 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第VI欄 ある種の引用文献
 第VII欄 国際出願の不備
 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 13.01.2004	国際予備審査報告を作成した日 27.07.2004
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 加藤友也 電話番号 03-3581-1101 内線 3381
	3Q 8824

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

この報告は、_____語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

PCT規則12.4にいう国際公開

PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。（法第6条（PCT14条）の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。）

出願時の国際出願書類

明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 指定により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること）
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。（PCT規則70.2(c)）

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること）
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条 (PCT35条(2)) に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 18-36 請求の範囲 1-17	有無
進歩性 (I S)	請求の範囲 18-33 請求の範囲 1-17, 34-36	有無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1-36 請求の範囲	有無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : JP 8-142784 A (東海ゴム工業株式会社) 1996. 06. 04
 文献2 : JP 11-208395 A (河西工業株式会社) 1999. 08. 03
 文献3 : JP 6-8930 Y2 (富士重工業株式会社) 1994. 03. 09
 文献4 : 日本国実用新案登録出願63-133535号 (日本国実用新案登録出願公開2-54754号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (マツダ株式会社) 1990. 04. 20
 文献5 : JP 11-129840 A (日泉化学株式会社) 1999. 05. 18

請求の範囲1-17について

国際調査報告で引用された文献1に記載された発明における「パッド6」、「縦リブ3、横リブ4」が、請求の範囲1-17に記載された発明における「圧縮エネルギー吸收材」、「坐屈エネルギー吸收材」に相当する。

国際調査報告で引用された文献2に記載された発明における「衝撃吸收パッド50」、「クリップ取付座40」が、請求の範囲1-17に記載された発明における「圧縮エネルギー吸收材」、「坐屈エネルギー吸收材」に相当する。

国際調査報告で引用された文献3に記載された発明における「エネルギー吸收材」、「バックアップビーム」が、請求の範囲1-17に記載された発明における「圧縮エネルギー吸收材」、「坐屈エネルギー吸收材」に相当する。

国際調査報告で引用された文献4に記載された発明における「緩衝体」、「ハニカム構造体」が、請求の範囲1-17に記載された発明における「圧縮エネルギー吸收材」、「坐屈エネルギー吸收材」に相当する。

国際調査報告で引用された文献5に記載された発明における「衝撃吸收材A」が、請求の範囲1-17に記載された発明における「坐屈エネルギー吸收材」に相当する。

したがって、請求の範囲1-17に記載された発明は、新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲34-36について

請求の範囲34-36に記載の箇所は衝撃を受けやすい箇所であることが当業者に自明であるから、国際調査報告で引用された文献1-5何れに記載された構造体を当該箇所に設けることは、当業者であれば容易に想到したことである。

したがって、請求の範囲34-36に記載された発明は、進歩性を有しない。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 18-33 について

座屈エネルギー吸収部の衝突エネルギーの吸収を開始する衝突タイミングと、衝突してから衝突力がピーク値となるピーク値タイミングの少なくとも一方を、段階的又は連続的に異なるように設定する点について、国際調査報告で引用された文献の何れにも記載されておらず、上記点は当業者に自明な事項ともいえない。

したがって、請求の範囲 18-33 に記載された発明は、新規性、進歩性を有している。